

## 読書感想文の書き方インタビュー

以下のインタビューをして読書感想文の構想をパソコンで作り、原稿用紙のマス目で字数を確認してから時数合わせのために肉付けをし、どうしても字数が足りなければあらすじをさらに詳しくする。字数の確認ができるため、子ども親も安心して作成できる。

できあがったものをプリントアウトしてから、原稿用紙に手書きする。

子どもにただ『読書感想文を書け』と言っても、ほとんどの子どもには『おもしろい読書感想文』など読んだ経験はない。読書感想文というものにいい感覚はなく、『書かされる』という義務感だけが漂い、それゆえ『読書感想文』の宿題は常に苦痛である。そんなもので家の中の空気をよどませたり、『まだ5行しか書いてない!』と大人が横やりを入れて、読書感想文にまつわる子どものしんどさを増やしてはならない。そんな時こそ、メリーポピンズのように親が登場し、楽しい共同作業に変えてしまうと同時に『あの苦痛な読書感想文はこのパターンで書けば確実に筆は進み、しかも楽なのだ』ということ・・・誰も教えないことを、親こそが教えてしまう。

即書感想文を書くための子どもへのインタビューは以下の通り。

このフォーマットにどんどんインタビュー内容を打ち込み、最終的にはもとの骨組みを削除して子どもらしい原稿に仕上げてしまう。

もし子どもの言い分が大人の思惑と違っていても、口をはさんではならない。その子らしいつたなくかわいい感想文でなければならない。ほとんどを大人が作った感想文になって、うっかり選ばれてみんなの前で発表させられるなどとなると、ありがたいどころか怒りしか沸かなくなって、せっかくの楽しい共同作業が異質のものになってしまうからである。来年の夏はまた、読書感想文に苦しむ夏休みに逆戻りである。子どもらしく、その子らしく仕上げあげることである。よいものを仕上げたいというよりも、子どもの願い・・・早く宿題を終えて身軽になりたい・・・この気持ちを優先することは大切である。その延長線上には、親がありがたく思えること、親と共にいろいろな苦勞を乗り越えること、人と共に問題を解決し、一人で抱え込まない人生がある。今の大変奇妙な世の中ではとても大切な生き方である。

そして、読書感想文を書くことが苦痛でなくなった時、大変さがなくなった後に『もっと良いもの』『もっと面白い物』を書こうとするようになるという向上心が出現するものである。苦痛な間にそんなものが生まれるはずがない!

1. どうしてこの本をえらぶことになったか・・・のいわゆる『プロローグ』で思い切り行稼ぎをする。少なくとも5～8行は固い! 以下のようにいくらでもプロローグは延長できる!

例)

『私はいつも読書感想文が苦手です。又夏休みに宿題に出て、今年もまた本当に悩んでしまいました。すると、おかあさん(〇〇先生)が

「こんな本があるけど、どう? 読書感想文を書きやすいで。」

と本を持ってきてくれました。

私は一瞬そんな本なんか読めるはずがないと思っていましたが、おかあさん(先生)が

「読書感想文の本を選ぶのがに困っちゃうがやろ? 選ぶことにも疲れたろうき、もうあきらめてこれにしいや。」と言いました。そこでこの本にしました。

本を開けてみると、長かったけどまあ、なんとか読めました。読み終えて私は本当にほっとしました。まずまずおもしろかったです。』

2. この本は何について、どんな人について書かれたものか、簡単に紹介する

例) 『この本はだれだれが〇〇したという本です。』

例) 五体不満足の場合

『この本は、ある障害者が産まれた時の事から社会に出るまでの事を本人が書いたものです。この人は、今は極端に短い手足しかないという状態で、電動車いすで暮らし、結婚もし、社会活動もしています。またいろんな人に読んでもらうために、この本は全部の漢字に振り仮名を振り、また目の見えない人のために録音したCD本も作ったということです。』

3. あらすじ・・・『主人公の生まれは・・・です。・・・のときに、・・・なことがありました。そのときに先生が・・・と言いました。それで主人公は・・・』形式

例) 五体不満足：『主人公は生まれた時からほんの短い手足しか体についていなかったのです。一目見てもびっくりする赤ちゃんで生まれてきたのに、おかあさんは保育器の中のこの人を見て、「まあかわいい！」と言ったそうです。

それで、主人公は自分の体の事をどこに行っても恥ずかしいと思ったりせずに生きるようになりました・・・

小学校の時も、普通の学校で普通に暮らしました・・・。

その上びっくりすることに中学校に進学した時、主人公がバスケット部に入りたいと言ったことを親は止めず、『みんなに迷惑をかけるから止めておきなさい』とも言わず、親がバスケット部に主人公を入部をさせてくれたのです。その結果は想像の通り、皆の足手まといでした。どうしてみんなに嫌がられなかったのかはわかりません。でも親も試合を見に来ても、何も言わなかったのです。ほかの人も止めろなどとは言わなかったのです・・・。

水泳大会だって、短い手足で25mを泳ぐことなんて大変だしぶざまだし、絶対遅すぎるのに、みんなの中で最後まで泳ぎ切ってしまいました・・・。

全部の手足が20センチくらいしかないのに、普通に立って歩くこともないのに、おとうさんと服のファッションの話をし、そしてブランドの服も買ってもらっていました。

4. 我が身に置き換えた感想・・・『もし主人公が私なら、○○だったと思います。○○もできなかったら、○○と思って××と言ったと思います』形式の感想

例) 五体不満足：『もし私がこの主人公なら、短い手足の体を人前にさらすなんて恥ずかしくてしなかつたら、○○と書いて××と書いて』形式の感想  
例) 五体不満足：『もし私がこの主人公なら、短い手足の体を人前にさらすなんて恥ずかしくてしなかつたら、○○と書いて××と書いて』形式の感想

どうしてこの主人公がそんなことができたのか、私にはわかりません。この主人公はよっぽどみんなに好かれていたのでしょうか。明るくて、みんなをほっとさせるものを持っていたのでしょうか。』

5. 『この本を読んで、こんなことがわかって、良かったです。』形式の結語

例) 『世の中には、見た目には人にすぐわかるひどい障害があっても、こんなに明るく頑張っている人もいるのだなと思いました。』

※上記をインタビュー形式で箇条書きで書き出し、それに子どもと一緒に適当な肉付けをして、それを聞きながらパソコンの『原稿用紙』書式で打ち、文字カウントで字数を算出する。

そのあと

- ・字数をあらすじの部分で調整して増やす
- ・会話形式の「・・・」を入れることで、改行が増える
- ・要するに、起承転結の文書作成法であるが、起・承・転・結の間を一行ずつ開けると、とても読みやすい

・さらにアフターサービスとして、手書き原稿に起こすときに横で読んでやると、ものすごく早く終わる。終わったら二人でささやかな慰労会をする！